

2019年2月18日RDUF公開シンポジウム

RDUF リサーチデータ・サイテーション (RDC) 小委員会

RDC小委員会 発起人メンバー (5名)

住本 研一 (JST 知識基盤情報部)

1. 小委員会発足の目的

- ・研究データの引用関係の把握は、オープンデータにおいては重要な課題であるが、諸外国に比べ日本全体としての取り組みは遅れている。
- ・特に、分野を越えての集まりや、職種を越えて日本全体として、研究データ引用について情報を共有する場が少ない。
- ・しかしながら、研究データ引用は研究者だけでも、出版者だけでも、システム運用者だけでもできるものではない。
- ・研究データ引用の実現に立ちはだかる課題を共有すると共に我が国の現状を調査し、課題解決に向けて基礎的資料を整えることを、当面の目的とする。

データ引用にかかわる課題例

第1回小委員会でブレインストーミング

作成・取得フェーズ

メタデータの作成などデータを活用しやすい形にするための予算や人員不足

費用対効果をみせる
インセンティブの創出

評価フェーズ

データ引用に関して誰を何で評価するか

研究データの被引用数、DL数、View数等のカウントを可能とするシステム整備と利用促進

登録フェーズ

データの永続的な保管場所 (FAIR原則の確保)
予算や人員不足
データの粒度・作法 (再利用しやすさ)
オープン・クローズ戦略
メタデータ整備

利用フェーズ

データに関する権利関係の不透明さ
データの質や信頼性について
メタデータの検索や発見サービス

データ引用に関するジャーナルポリシーの変更
データ引用に関するお作法の共有
研究発表の慣習

データ利用のベストプラクティクス

* 他の小委員会対象部分 (下線部) と被らない部分で進める。

2. 現在のメンバー

現段階で18名が参加。

研究データ引用の幅の広さを示して

研究者（データ提供者、データ利用者、システム研究者）
大学・研究機関のデータリポジトリ関係者、図書館員、
学術情報流通関係者、情報分析者等

このように分野毎、職種毎の壁を越えて集まるのは貴重な機会

3. 今後の進め方

- 様々な分野、職種の方が参加。
- 一方で興味なども様々(第1回小委員会)なので、課題の抽出や情報共有を進める以外に、いくつかのグループに分かれて調査などを実施することも検討する。

例: データに関するジャーナルポリシー調査
学会発表など学会調査
研究分野間の意識の差

3月上旬 第2回小委員会 (以下2か月に1回程度開催予定)

5月上旬 第3回

5月27~28 Japan Open Science Summit (JOSS 2019) に
参加予定

12月に成果物を取りまとめて来年1月以降に発表する

5. 委員募集中

現在、RDUFのHP上で委員募集中

仲間を集めて、実施希望の調査ができるかも。
興味がある方は、HPの以下の場所からの参加をお願いします。

https://form.jst.go.jp/enquetes/rduf_Subcommittee_participation



RDUF 「小委員会」 参加申込フォーム

科学技術振興機構ホーム > RDUF 「小委員会」 参加申込フォーム

RDUF小委員会に参加するためには、RDUF会員になる必要があります。入会がお済みでない方は「研究データ活用協議会」入会申込フォーム よりご入会手続きをお願いいたします。

以下の項目にご記入の上、お申しください。

受付後、自動返信メールが送信されますのでご確認をお願いいたします。

お名前 (必須)